

研究  
主題

# 運動大好き 祓川っ子の育成 ～学び合い、高め合い、「できた」実感を味わえる 体育指導法の研究～

1 本研究について

目指す子どもの姿

## 運動大好き 祓川っ子



〈学校教育目標〉 心豊かで よく学び たくましく生きぬく 祓川の子どもの育成  
 〈校訓〉 ～あかるく かしく たくましく～

| 児童をとりまく環境   | 児童の実態  | 授業における課題  |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 放課後、土日に運動をしている児童が少ない。</li> <li>○ スポーツ少年団が少なく、運動系の習い事をしている児童が少ない。</li> <li>○ ゲーム・テレビに費やす時間が長い。</li> <li>○ 近所に公園等が少なく、運動をできる場所があまりない。</li> <li>○ 車で送迎してもらっている児童が多い。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動が好きな児童は多いが、苦手な種目がある児童も多い。体力・運動能力調査の結果を見ても、全国平均を下回る種目が多い(長座体前屈, 50m 走, 立ち幅跳び等)。</li> <li>○ チーム内での「学び合い」がなかなか活発に行えない。</li> <li>○ 勝敗にこだわりすぎるあまりゲームの中でトラブルが起こってしまうことがある。</li> <li>○ 児童会が主体となった運動への取り組みが不十分である。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人差が大きく、個別の指導が難しい。</li> <li>○ 児童数が少ないためチームの人数が少なくなってしまっている。</li> <li>○ 「学び合い」の時間がなかなか確保できていない。</li> <li>○ 評価の規準の設定が難しい。</li> </ul> |

令和4年11月25日(金)



鹿屋市立祓川小学校  
HARAIGAWA ELEMENTARY SCHOOL

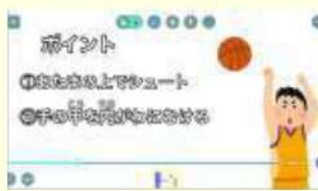
(1) 対話を重視した「学び合い」

1 単位時間の中で、必ず学び合いの時間を設定するようにした。タブレットなどを活用したり、ワークシートを活用したりすることで課題を視覚化することができ、対話を重視した「学び合い」が行えた。また、見通しをもたせたり、話し合いの視点を与えたりすることで、自分やチームの課題を明確にし、より「学び合い」を活発に行えるようにした。



ロイロノートで作成した  
作戦ボード  
チームのメンバーの顔写真、ボールなどのコマを自由に動かすことができる。高学年は敵のコマもおきながら話し合いを進めている。

【作戦ボードの活用】



【ICT の活用】

【ワークシートの活用】

1 単位時間の流れ 学び合いを含む箇所

- ① 準備運動・補強運動
- ② ドリルゲーム
- ③ めあての確認
- ④ 話し合い  
(作戦の確認、コツの確認など)
- ⑤ ゲーム又は技能向上のための練習  
(作戦の見直しなどの話し合いを含む)
- ⑥ 整理運動
- ⑦ まとめ
- ⑧ 振り返り

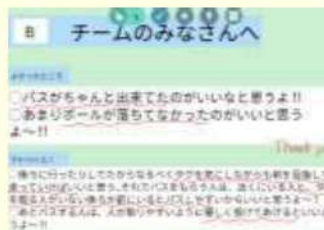
(2) 異学年交流による「高め合い」

本校は全学年単学級であるが、1 学年 10 人程度と少人数であるため、複数学年による合同授業を実施した。チーム分けやルールを工夫し、異学年でのコミュニケーションを取りやすくしたり、他学年のよさを認める場を設定したりすることで異学年交流による「高め合い」ができるようにした。

また、評価規準を明確にして授業を行うことで、それぞれの学年に合った指導を行うことができた。



【異学年によるチーム編成】



【下学年へのアドバイス】

|          |  |
|----------|--|
| 知識・技能    | ① 近くにいるフリーの味方にパスを出したり、ボールを落とさずに受け取ったりすることができる。(◎)        |
|          | ② 得点しやすい場所に移動しパスを受けたり走りこんだりしてトライすることができる。(○)             |
| 思考・判断・表現 | ③ ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動しパスを受け、トライすることができる。(○)        |
|          | ④ ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることができる。(●)                      |
| 態度・学習活動  | ① みんなが楽しめるようなルールを選んでいる。(◎)                               |
|          | ② チームの特徴に応じた作戦を選び、自己の役割を確認している。(○)                       |
| 主体的な学習活動 | ③ チームの特徴に応じた作戦を選び、役割や動きをチームの仲間へ伝えていく。(●)                 |
|          | ④ 自己や仲間が行っていた動き方の工夫を ICT 機器を用いて記録した動画などを使って、友達に伝えている。(◎) |

【異学年の評価規準例(タグラグビー)】

◎=5・6年生の評価基準、○=5年生の評価基準、●=6年生の評価基準

(3) 「できた」実感を味わわせる工夫

個人やチームのめあての設定、運動が苦手な児童への個別指導、動画撮影等で自分の動きを確認することで「できた」実感を味わえるようにした。TTでの指導を行うことで、個別指導、試合の際のアドバイスが多くできるようになった。また、体力テストで課題となる体力をつけるための補強運動を取り入れ、体力の向上を図った。さらに、毎時間振り返りを行うことで、自分の「できた」を実感させるとともに、その時間の学びを振り返り、次への課題を明確にし、意欲の向上につなげている。



【動画の撮影】



【振り返りの充実】

ロイロノートでワークシートを作成し、活用している。持ち帰って家庭で振り返りをしたり撮影した動画を添付して見直したりすることができる。



【柔軟運動を取り入れた準備運動】

【T2による指導】



T2の役割

- 苦手な子への個別指導
- 児童の様子の観察・共有
- グループ活動の際のアドバイス役
- ゲームの際の審判・声かけ
- ドリルゲームの指示

# 教科外 体育

## (1) 全校児童での体カづくり

体育委員会を中心として、毎朝体カづくりを行った。ランニングや縄跳びだけでなく、鬼遊びなどの種目を取り入れることで、ほぼ全ての児童が参加することができた。また、児童会が「みんなで遊ぶ日」を計画し、実施することで、異学年で楽しく運動ができた。

異学年で活動することで、下学年は運動のコツについて教えてもらうことができています。鬼遊びでは、下学年に対してはゆっくり走るなど、思いやりのある行動も見られた。



【ふえおに】



【縦割りの班による長縄エイトマン】



### 体カづくりの例

- サーキットトレーニング (うんてい、鉄棒、のぼり棒、もも上げ、タイヤ跳び、横跳び、階段上り下り)
- ふえおに
- 長縄 (縦割りの班)
- 短縄
- ランニング

## (2) 体カづくりカード

体カづくりカードを作成し、達成度に応じて合格証を配布したり、各自の体カアップファイルにカードを綴り、体カの伸びを実感させたりすることで児童の意欲を持続させながら体カづくりに取り組ませることができた。



【なわとびカード】

10級～10段、名人まであり、スモールステップが踏めるようにしている。

大隈地方の名所を巡って進めるようなカードにしている。



【マラソンカード】

## (3) 環境整備

長縄エイトマンやレッツ短縄跳びなどの種目の記録を掲示板に掲示し、児童の頑張りが目に見えるようにした。また、「体カ向上プログラム」「プラス5分運動」といったすぐにできる運動の紹介も行った。



【体育掲示板】



# 地域・家庭 連携

## (1) 地域との連携

地域の人材活用、鹿屋体育大学との連携などを行い、体カ向上のための練習法などについて学ぶ機会を設定することで、専門的なアドバイスをいただくことができた。また、市の小体連とも連携し授業研究を行うことで、より熱心な協議を行うことができた。

### 地域人材の活用

- 家庭でできる運動の紹介
- 技の手本の披露
- 個別支援
- 指導助言 (対教師)



【地域スポーツ人材 (健康づくりフォーラム講師) との連携】

### 鹿屋体大との連携

- 朝の体カづくりの支援
- ストレッチ動画の提供
- 技の見本・コツをまとめた動画の提供
- 授業時の支援
- スポーツに関する標語の応募
- 授業参観・指導助言 (●学生 ●教授)



【鹿屋体育大学との連携】



【市小体連との連携】

## (2) 家庭との連携

学期1回、基本的な生活習慣の定着を目指して、健康週間を設定している。家庭での体カづくりも項目に入れて、家庭との連携を図っている。体カづくりは、タブレットを持ち帰らせ、体カづくりの様子を動画で撮影し、提出してもらうようにすることで、体カ向上を意識し親子でふれ合いながら運動に取り組む様子が見られた。



地域の郷土芸能「八月踊り」「棒踊り」は、毎年地域の方に動きを教わり運動会で披露している。実際に地域の方に教わることで、一緒に楽しく体を動かせるだけでなく、郷土についての理解を深める良い機会になっている。

【地域住民との連携】



【健康週間の設定】



【家庭での体カづくりの啓発】

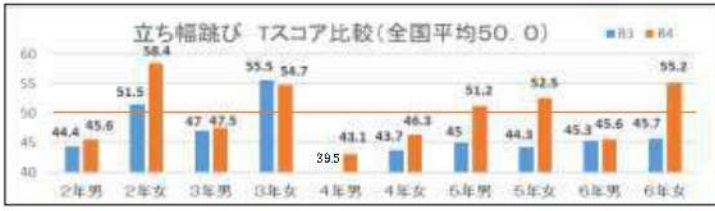
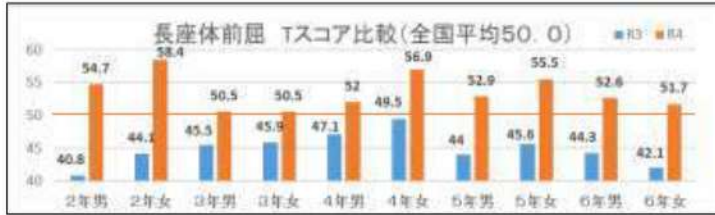


【家庭での体カづくりの様子】



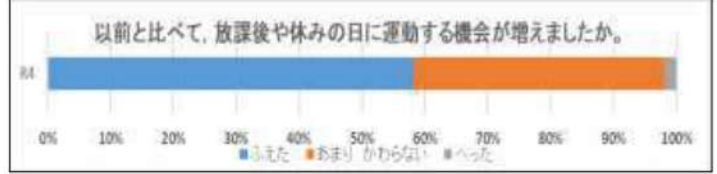
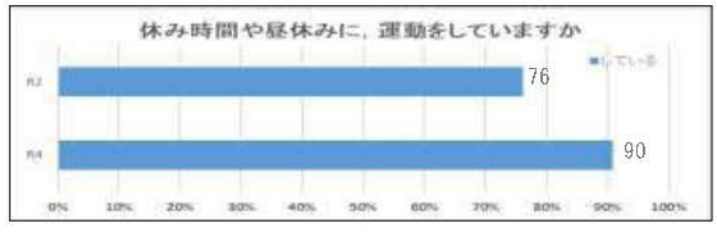
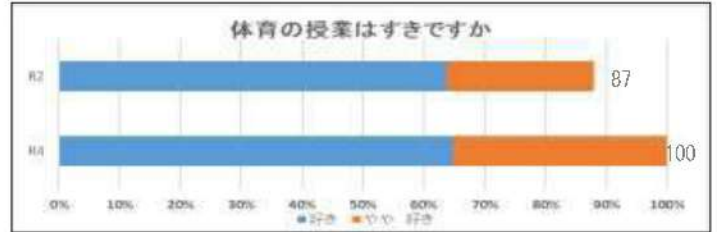
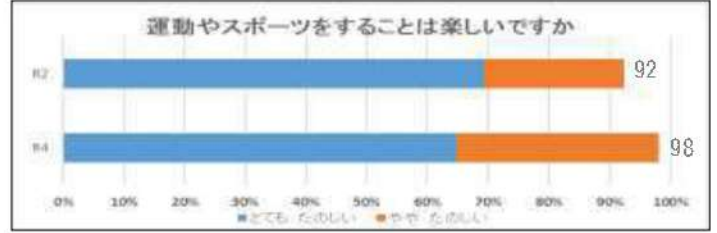
### 3 研究の成果

#### 体力テストの結果より



| 全国平均を上回った種目数(全8種目中) |    |    |     |    |    |
|---------------------|----|----|-----|----|----|
|                     | R3 | R4 |     | R3 | R4 |
| 2年男                 | 1  | 4  | 2年女 | 7  | 8  |
| 3年男                 | 1  | 5  | 3年女 | 5  | 8  |
| 4年男                 | 2  | 4  | 4年女 | 1  | 3  |
| 5年男                 | 4  | 7  | 5年女 | 6  | 8  |
| 6年男                 | 3  | 6  | 6年女 | 2  | 8  |

#### 児童の実態より



- 「運動やスポーツが楽しい」と答えた児童が、98%に増えた。
- タブレットを有効活用しながら異学年で積極的に話し合う様子が見られるようになった。作戦を意識した声掛けや、よいプレーに対する称賛の声掛けなど、温かい雰囲気の中で活動ができるようになってきたことで、「できた」実感を味わえる場が増え、振り返り等で自分のできるようになったところに気付く児童が増えた。
- 新体力テストの向上が見られた。特に長座体前屈は全学年で向上し、Tスコアが10以上伸びた学年もあった。50m走、立ち幅跳びについても、向上が見られた学年が多かった。
- 授業外での運動の時間が増えた。また、運動のコツを教えたり、上手くできた時に称賛の声掛けをしたりしながら体力づくりに取り組むことができていた。
- 体力テストの結果や体力づくりカードの進捗状況をもとに、自分の課題を決め、運動に取り組む姿が見られた。
- 地域の人材活用、鹿屋体育大学との連携などを行うことで、児童に専門的なアドバイスをすることができ、技能の向上につながった。
- 親子で協力して体力づくりに取り組む姿が見られた。健康大作戦を行った際は、「体力づくりの時間を作っていきたい」「親子で楽しく運動が行えた」など、家庭での体力づくりに対する意識が高まった感想が多くあった。

### 4 研究の課題

- ▲ 「運動やスポーツが楽しい」と答えた児童は増えたが、「やや楽しい」と答えた児童の中には苦手な種目があると答えた児童も多く、苦手意識をなくして楽しく運動に取り組むための手立てについて更に考えていく必要がある。
- ▲ 今後、更に児童数・職員数が減少していく中で、異学年交流をどのように行わせるか検討していく必要がある。
- ▲ 新体力テストでは、あまり向上が見られなかった種目や、全国平均を下回る学年が多い種目もあるため、それらの種目についても向上が図ることができるように、計画的・継続的に補強運動等を行っていく必要がある。
- ▲ 児童の意欲を持続させ、運動の習慣化がより一層図れるように、体力づくりの項目や掲示物の内容を見直すなどの改善を続けていく必要がある。
- ▲ 低学年で個人差が大きい傾向が見られるため、幼保小での連携も進めていく必要がある。